

---

# 風と夕焼け

シマウマ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

風と夕焼け

### 【Nコード】

N5949Z

### 【作者名】

シマウマ

### 【あらすじ】

連載形式の短編集です。今まで書いたものや、最近書いたものを載せていきます。基本若者の青春を描くことが多いような……ともあれ、よろしくお願いします。



## 『ミチシルベ』（前書き）

突然ですが初めまして、シマウマです。この度は『風と夕焼け』、  
手にとっていただきありがとうございます。

この風と夕焼けは短編集です。一話一ページというとても短い内  
容で、きつと皆さん味気ない、物足りないと思われるでしょうが、  
そんな中にひとつでも、気に入っていただける物語があれば嬉しい  
です。

なお、一話終わるごとにあとがき、のようなものを書いています  
が、全く気にせず次に行っちゃってOKです。

では、ごゆっくりどうぞー

## 『ミチシルベ』

【人生を『道』、その道に自分が残した痕跡を『足跡』とするならば、私の道にはきつと、目を凝らさなければ分からない程に微かな足跡しか残っていないだろう。

無難に、安全に、忠実に。

当り障りのない、酷くつまらない道。なんの事件もなく、ただ毎日過ぎてゆく。  
そんな安全で変化のない道だからこそ、逸れることがなく、迷うこともない。

だから、ひどく薄い足跡しか残らない。

そんな、よく言えば安定した、悪く言えば、面白くない道。

——だけどそれは、道が悪かった訳ではないのだ。

幾らでも、他の道へ進むことは出来た。いっそ道無き道——獣道を進むなり。

……足跡が弱々しいなら、靴を履き変えれば良いだけのこと。

結局、悪いのは、

道を決め、靴を選び、実際にその道をゆく……旅人<sup>わたし</sup>。

今更後悔しても遅いのは分かってる。引き返すことが出来ないということも、知っている。

同じ場所に戻るには……同じ時間をかけて、回り道をするしかない。

けれど、これは、『人生』という名を冠する道。生きていなければ、歩むことすら許されない。

道を踏み外し、命を落とした旅人は、歩く足を失う。

もう足跡は、残せない。

だけど、もしまだ私が旅人であった時、それらに気づく事が出来たとして……実際に、行動出来ただろうか？

時間を掛けて、自分にあった靴を探し、自分の思う道を――

……きっと、無理だ。

だからもし、生まれ変われるなら。

どうか、我儕な旅人でいて——】



「……ふう」

手紙を読み終える。

この手紙は、“記憶を失う以前の私”が書いたものらしい。

数ヶ月前、私は崖からの飛び降り自殺を図った。けれど結局死ぬことはできず、今もまだ、病院で入院生活を送っている。

後遺症も、記憶を失うだけで済んだ。

「――我が侘な、私で」

今の私が意識を取り戻してから、二週間。

これから私はどうするべきなのか、迷っていたけれど……手紙を通して、彼女が、そう言うのなら。

「それを、私のミチシルベにしてもいいよね——私？」

『ミチシルベ』（後書き）

記憶と人生を旅人に例えて描いた物語。

自分のイメージする「生きるということ」の回答の一つであり、前向きに進もうとする少女は「まだ何も手にしていない旅人」に他ならない。そしてそれは、これから先、なにが待ち受けているのかわからない“誰しもの人生”を暗喩している……つもり。

## 『パントマイマー』

登校時間とは、僕にとって、一日の中で最も苦痛な時間であり、最も不愉快な時間である。

勘違いしないで欲しいのは、通学路によく吠える犬がいて怖いとか、踏切が多くてイライラするとか、工場からの異臭がひどいとか、そんなちっぽけなことが原因じゃないってこと。

じゃあ理由はなにか？ そんなもの、二行もあれば説明できてしまいうくらいに簡単な話だ。

「よ。今日も顔色悪いな！」

……要するに、入学から毎日のように絡んでくる友人が極めてウザいんだよ。

「正樹はもう少し他人の顔色を窺うということを覚えたほうがいいよ」

「面倒くさいから嫌だ」

——昨日は雨が降ったが、今日は晴れている。

天気は毎日のように変化するのに、今日も彼は鬱陶しい。変わらないものが、ここにある。不快だ。あ、通学路によく吠える犬がいるってのは間違いじゃないな。怖くはないけど。

「……………」

「……………」

「……ねえ正樹。百歩譲っても許さないけどさ、せめてなにか話題出さないとホント鬱陶しいだけだよ？」

「あ、そーな。うん」

よく吠える犬と称した途端に黙るとは……変わらず空気が読めない奴だな。協調性がないというか。僕も人のことは言えないけど。

「……お前、友達出来たか？」

出来る訳がない。わざわざ僕みたいのに絡んでくる物好きはお前くらいだ。

僕の表情で察したのか、暗い表情をする正樹。……こんな時だけ

顔色を窺うな。

「やっぱりその『僕』って一人称が悪いと思う」

「ふーん。じゃあなに、俺にでも変える？」

「そうじゃねえだろ」

「……なんで？」

「なんでじゃないだろ？ “灯里ちゃん”？」



「……大きなお世話だよ」

全く、僕はわざと他人と距離を取ってるのに……馴れ馴れし過ぎて腹が立つ。そしてちゃんを付けるな名前で呼ぶな。

……というかもう、絡まれるのは正樹だけで十分だ。

……なんか悔しいから、絶対口には出さないけど。

「そうか……」

そんな、分かりやすくしゅんとなるなよ。

……あーもう。

……これだから、登校時間は大嫌いだ。

『パントマイマー』（後書き）

人付き合いの面倒さ、その温かさを。

人の優しさに対して自分はどういう行動を取っているかという感情をテーマに描いた小説。

他人を気にし過ぎるあまり自分が疎かになってしまった、孤独好きの主人公。そのくせ正樹のことはちゃんと「友人」と認識していたりする、変わった奴です。

皆さんは日頃、素直に過ごしていますか？

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5949z/>

---

風と夕焼け

2011年12月19日22時52分発行